

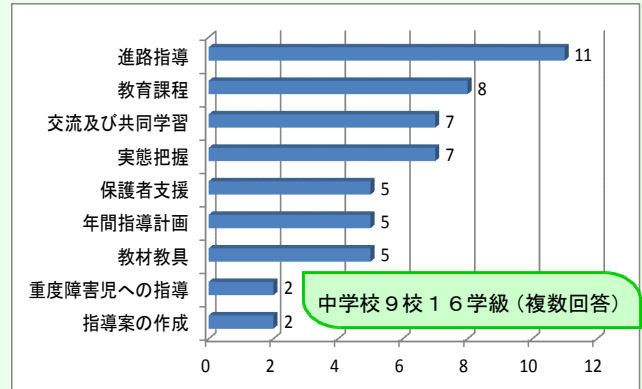
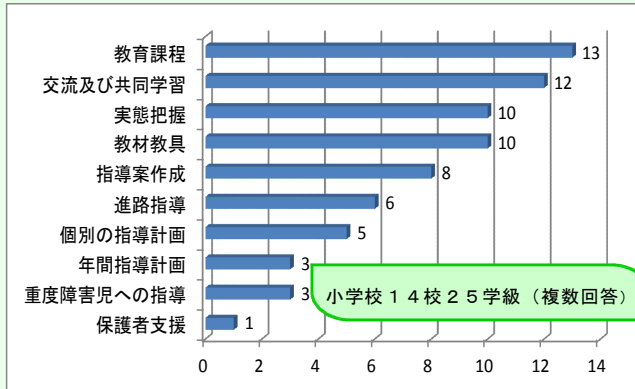
チャンス・チャレンジ・チェンジ



秋田県立支援学校天王みどり学園 加賀谷 勝

特別支援学級担任へのアンケート結果

先月、地域の小・中学校の特別支援学級担任に、現在抱えている疑問点や本校への相談内容を調査した。この結果を紹介する。



- 共通して一番多かった相談は、教育課程編成に関することである。どのような内容をどれくらいの時間で行えばよいのか、生活単元学習をどのように取り入れたらよいのか、自立活動の実践例を知りたい、実態の異なる子どもの教科学習の進め方等があった。特に、合わせた指導については、初めて耳にする担任が多い。日常の様子観察、保護者からの情報、引き継ぎ資料、検査等の客観的なデータを基に、子どもの的確な実態把握がスタートになる。
- 次に多かった相談が、「交流及び共同学習」についてであった。効果的な交流活動を知りたい、子どもが頑張っていることを知ってもらうための手立ては？、周囲の子どもへの障害理解を促すためにはどうしたらよいか等が寄せられた。互いを知らないことによる戸惑いや思い込みが背景にあるので、直接的・間接的に知ることが大切である。特別支援学級在籍児童生徒の得意なことを紹介したり、みんなの役に立つ役割を通して認められたりする機会を増やして存在価値を高めていく。また、教師の子どもの捉え方が周囲の子どもに伝染するので、良きモデルとなる関わり方を示してほしい。この課題はインクルーシブ教育を実現するためにも、学校全体が取り組むべき内容である。
- 中学校で一番多かった相談は、保護者との合意形成も含めた進路指導であった。3年生になってからではなく、1年生から計画的に進路指導を進めてほしい。ある中学校では、1年生から定期的に三者面談を行い、2年生では進学先の教育相談や学校見学を計画し、3年生では体験学習を繰り返しながら、本人及び保護者が納得できる進路決定につなげている。

特別支援教育セミナー及び特別支援学級スキルアップ授業研修、特別支援教育支援員配置校研修が本格的にスタートする前の5月23日～6月3日(16:00～17:00)までの2週間を利用して、本校周辺の特別支援学級担任の疑問や悩みに応える相談会を計画している。

良い人生にするためには・・・

人は1日に約9,000回の選択をするといわれている。朝起きてから夜寝るまで、選択の連続である。しかし、人は弱いので常に2つの心が動く。何かしようとしたとき、「よーし、やろう！」という心と、「あーあ、やめようか」という心である。どちらを選択するかは、自分の2つの心の闘いである。良い選択ができれば、良い1日になるだろう。良い1日を繰り返せば良い1週間になる。良い1週間を繰り返せば良い1か月になる。良い1か月を繰り返せば良い1年になる・・・。



つまり、良い人生にするためには、「今」が大切になる。
自分で選択すると多少くらい辛くても頑張れる。そして、良い結果になれば自信になる。たとえ失敗してもチャレンジした経験が残り、次への意欲につながる。意欲が出てくるときが、伸びどきである。